

# 巻 頭 言

別府大学日本語教育研究センター長

松 田 美 香

別府大学日本語教育研究センターは2009年4月に設立され、今年で14年目を迎えます。研究のための『別府大学日本語教育研究』も本号で第13号となります。

令和4（2022）年度は新型コロナウイルス感染が下火となり、6月7日に日田市、11月15日に豊後大野市への「第2次オリエンテーション」を実施することができました。日田市で『進撃の巨人』の主人公たちの銅像が立つ大山ダム、豊後大野市では朝倉文夫の彫刻作品等を見学し、大分県にて見聞を広めました。そして、これまで「スピーチコンテスト」としてきた行事を内容に沿った名称に変更し、7月25日に「日本語プレゼンテーション成果発表会」と改めて実施しました。また、後期には1月17日に「朗読コンテスト」を、どちらも対面で行うことができたことを報告いたします。

長いトンネルを抜け、後期には対面のみでの授業が行えるようになりましたが、後期には受講生が全員新型コロナウイルス罹患者・濃厚接触者となり、クラス運営が滞ってしまうということもありました。幸い、重い後遺症になった留学生はいないようですが、罹患者が低年齢化したことで、科目担当の先生方には授業・進度共に御負担をおかけする事態が生じてしまいました。

このような不安定な状況の中でも、本紀要には3名の先生方からの御寄稿が掲載されることとなりました。御研究への情熱に敬意を表しますとともに、本紀要に御寄稿いただきましたことにお礼申し上げます。

感染症だけでなく、世界のあちこちで戦争が絶えません。また、異常気候による天災も頻繁に起きるようになりました。私たちはいかなる留学生に対しても、学びたい気持ちに応え、平和な世界を作るための尽力を惜しんではいけないと思います。

最後に、本号の刊行にあたってさまざまな形で御支援をいただいた方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

令和5年3月31日